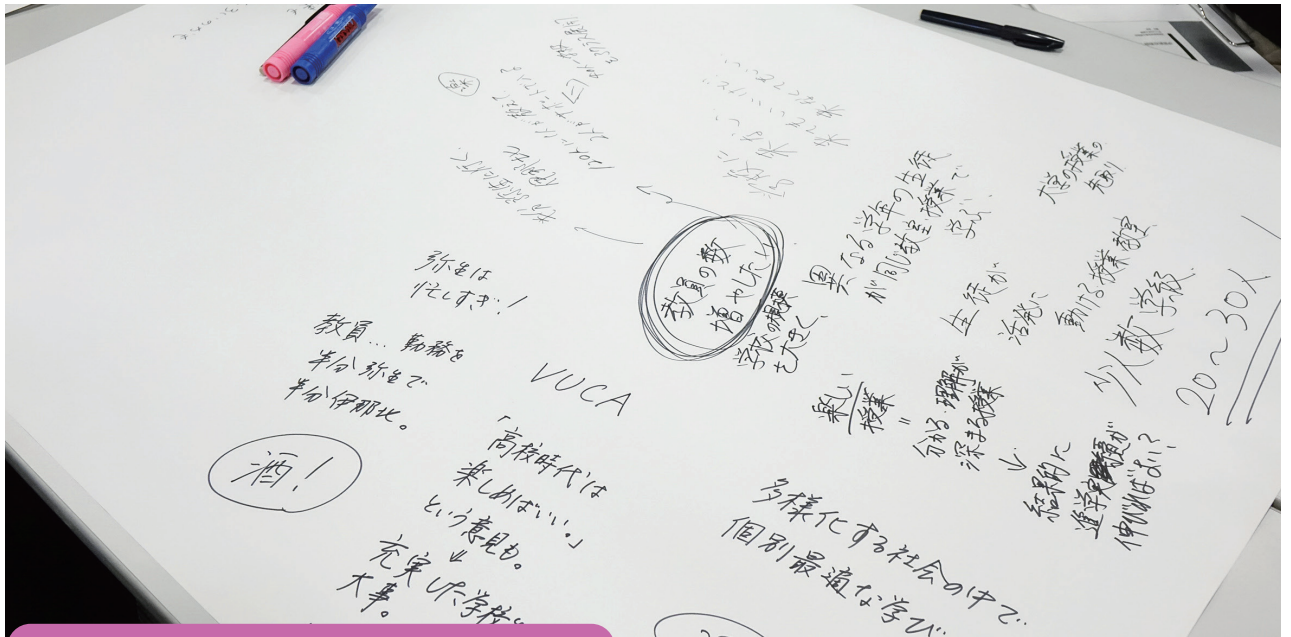


Thinking&Talking about New High-School!

プレワークショップ「先生ワークショップ② 学びの改革編」



●参加者
伊那北・弥生ヶ丘在籍の先生方 25 名
+JV チーム 6 名 合計 31 名

↑「付箋なし」で自由にどんどん書いていただいた

3/14 (火) 【先生プレワークショップ②】

16:30-17:30 伊那北高校 同窓会館

●講師：廣田晶彦（長野県教委事務局 学びの改革支援課）

全2回開催の先生方向けのプレワークショップ。今回は「教育の視点」からの、学びの改革・行き先についてインプットを行うことで、新校に対するイメージの「目線合わせ」を意図している。

講師・廣田氏による話からその後は理想的な教育のありかたについてグループワークを行い、共有した。伊那北・弥生ヶ丘両校から、今回も多くの先生方の参加があった。

●目的・趣旨

現在の教育改革（個別最適な学び、協働的な学び、令和の日本型教育）について、そしてこれからの高校教育の行き先について話していただく。

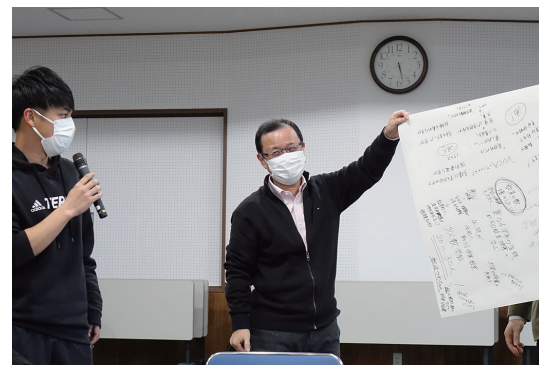
- 知見を増やすことで、新校のイメージを高める
- ワークショップによるアイデア創出のプロセス体験
- 伊那新校で新しい学びになるのではなく「今の学びからひとつながりに新しい学びがある」ことの共有



↑（長野県教育委員会事務局）学びの改革支援課 廣田先生によるレクチャー



↑メモをとりながら、廣田先生のレクチャーを聞く先生方



↑途中参加にも関わらず、具体的な提案へと発展するテーブルも

先生

●当日のフロー

1. 埋橋校長先生から廣田先生の紹介

・瀧内より本日のプレWSの位置付けと、目的の説明

2. 廣田先生のお話

●廣田先生からの「本日の話のポイント」説明

・大きく3つ
 ・これまで／これからの高校教育・学習指導要領の経過
 ・県教委が目指す「個人と社会のウェルビーイングの実現」について

(1) VUCA な世界

VUCA な時代にどのような能力を引き出していくか

・資質能力の特定／探究（主体的・対話的で深い学び）

(2) 多様性の時代

・個別最適な学び（指導の個別化／学習の個別化）

・協働的な学び

・インクルーシブ

(3) 小中高齢化

・極めて急激な減少を前提に、高校の存在意義や役割の明確化（普通科の弾力化・大綱化）

・動的、複線的、可変的なカリキュラム／連携

●まとめ

・再編とともに、高校教育に質的変換を

・複数の学習指導要領の時代、空間も変容するだろう

3. 感じた事を先生同士でシェアするワーク

シンプルに感じたことを「感想・共有」するワーク。6つのテーブルの模造紙に配置。今回は付箋は用いず、直接どんどん書いていく。

JVメンバーが各テーブルに1名つき、参加者の記述に対して「なぜ、そう感じたか？」を問い直し、さらなる叙述を促すサポートを行った。

4. 発表と講評

・それぞれ各テーブルで話された議論代表者がとりまとめ、全体に向けて発表。その内容について廣田先生からコメント。改めて、VUCA な時代に求められる「資質・能力」について言及された。

5. まとめ、今後のスケジュール共有

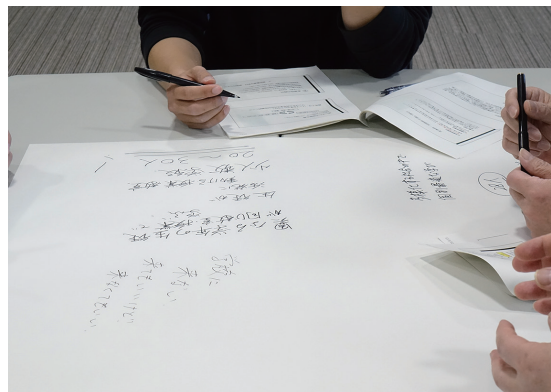
・3月から始まっているWS開催についての周知。



↑当初の研修予定日は大雪のため延期となり、満を持しての開催となった



↑JVにとっても新しい学びを深く理解する機会



↑先生方が対話をリードしていくため、JVによるサポートは最小限



↑若い教職員とベテランとが感想を共有する姿が見られた

●先生方からの感想・アイデア共有

模造紙への意見・アイデアを抜粋しました

●新しい学びについて

(例えば 10 年後、日本人の考えなど変わらなさなど) 将来を見据えて、いろんな指標がある中で考えていかないといけない。その中で「空間」では教室・机も広く、図書館中心へ。「仕組み」としては、教員同士の情報交換する時間・場所は必要だ。

●上伊那エラスムス計画

(EU における学生の流動化促進の仕組みを) 上伊那でも実施してみるのはいかがでしょうか。入り口は広くして、他校でも授業を受けられ、成長していく仕組みを作る。一方で、シンプルに求められる大学進学へと向けた学びの歩調に合わせた軸も必要。

●協調されそうなこと「個」

個の資質・能力によって「課題が違う」、教科の選び方に弾力性を持たせ、横断・学際的な学びの中で、学年ごとの目的・ゴールを明確化する(例えば 1 年次は知識、2 年次から弾力的に)。

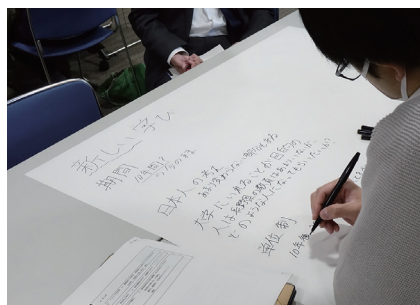
●進学実績を伸ばすことと、楽しい授業の実現は矛盾しない

分かる・理解の深まる授業のその先に、結果的に進学実績が伸びれば良い。そのためには教員のゆとりや数を増やすことで、相互乗り入的に教員が教えに行くことも実現できるのでは。

また、「減らす」という観点で、少人数学級や、部活やめる、紙の資料をなくすなど、負担感を減らすという議論があった。

●横断的な学びと空間

個の活動(没頭できる空間、収納など)や集団の活動が保証されて、行ったり来たりできる空間があれば。また、「学びの仕組み」では文系・理系という枠を越えて、ともに学べるようになるといい。



↑「長野県・日本人の考え」など「風土性」に着目してとらえるテーブルも



↑ 年度末にもかかわらず多くの先生方に参加いただきました

●総評・まとめ(ファシリテーターから)

廣田先生より「令和の教育」についてお話しいただきました。

刻々と動く現場にいらっしゃる先生方にとって、変化は難しく怖れるものだと思います。けれど、未来では、新校がある頃には変化していく必要がある。すでに変化していると思いますが、バックカastingで考えて、日々の小さな変化の「必要な変化幅」を考えていけるといいなと感じました。

また、いま、地域の皆さんとのワークショップをして「地域の関わり方」をデザインしています。時間的に参加は難しいかもしれませんが、ぜひそちらにも参加していただいたり、地域コーディネーターと対話を続け、「必要な変化幅」に役立てていただきたいと思っています。高校での地域の学びは、必ず地域への愛着に繋がります。ある研究データによると、地域生活のウェルビーイングの要因第 1 位は地域愛着だそうです。しあわせな地域社会のためにも、地域と学校がより協働できる状況をつくっていかれたらと思っています。

新しい学び

期間
10年間?
今のまま

日本人の考え
あまり変わらない部分もある

大学に入れることが目的の人は長野県の教員はあまりいないが...
どのような人になってもらいたいのか?

単位制
10年後、20年後にどのようなことをやれるか
考えながら、生徒へ
総採

空間
教室(広)
机も(広)
動かせる
図書館中心へ
(ラーニングスペースも
ついている学校も)

仕組み
教員同士の情報交換
教科に絞って...
共有の時間・場所

上伊那
エラスムス計画

- ・ 時間割を曜日で分ける
- ・ 授業エラスムス(しくみ)づくり
他校へ
- ・ 入国もく、出口も77様化
(成長のあか(か)見(見)え)
- ・ やりたいことがない生徒かわしたいことを見つ
けられるように

強調されること
「個」

知識の蓄積
段階的
天の知識の蓄積
資質能力

単位制
学期・学年可

手法
教科の選定方法
自由化?

横断
学際的

個で課題が違

プレワークショップ「先生ワークショップ② 学びの改革編」
Thinking&Talking about New High-School!

先生

Handwritten notes on a whiteboard discussing school structure and teacher roles.

酒!

「高校時代は楽しかった。」
↑
「充実した学校生活は、学生が自ら学ぶことによる。」
↑
「経済主義的」な学校

「VUCA, 2110014?」
↑
「多様な社会の中で個別最適な学び」
↑
1772
28人

「教員は... 勤務を... 辞めて... 伊那に...」
↑
「あなたは... 忙しそう!」

「教員の数増やしたい」

「学年の生徒数... 異なる授業...」
↑
「大学の授業の先取り」

「生徒が... 活動... 動ける授業教室」
↑
「20~30人」
↑
「部活や5人制サッカー...」

「120人に1人が替えて...」
↑
「2人がサポートに入る」
↑
「40人学級...」
↑
「E3クラス展開」

「先生は... 来ない... 来てほしい... 来てほしい...」

「先生の来も見えない...」
↑
「それもおかしいのかも」

Handwritten notes on a whiteboard discussing learning space and structure.

空間

- グループワークのしやすい空間
- 対話がしやすいスペース。
- 個の活動、集団の活動が保証される。← 行ったり来たり出来る
- 収納、教室内に生徒の荷物
- 没頭できる空間、プライバシーが守れる
- 先生と距離が近いスペース。質問しやすい、学年取員がいる。

学びの仕組み

- 文系、理系がともに学べる。
- 教科横断
- 文 ← → 理の柔軟性... 研究発表での交流
- 単位制...? 生徒の居場所は? 安心できる
- 空きコマを作らない方法も。
- 方向性が異なった時は? 保護者の不安
- ↓
- 自分の方向性を早いうちから探す必要
- 自分らしさ 小学校から
- 「アメリカの幼稚園など」
- 「1x1x やりたいことをやる。」
- ↓
- 「HRをとっはらって動ける時間があれば」
- ↑
- 教員の力量